

第1回 備蓄米随契は大手小売に30万t放出、店頭価格は5kg税抜「2,000円」見込み

農林水産省は5月26日から、備蓄米の随意契約を開始。

対象は米の年取扱量1万実t以上（見込み含む）の「大手小売業者」（ネット通販事業者含む）で、当面の売渡数量は計30万t（4年産20万t／3年産10万t）。



第1回結果

そして、農林水産省は5月29日、大手小売を対象にした随意契約による備蓄米売渡の審査・調整結果を公表。

申込は、4年産19万9,868t（48者）／3年産1万9,823t（19者）の計21万9,691t（61者）。

また、30日（金）から中小スーパー・米穀店向けの受付再開とされる

第2回随意契約

農林水産省は政府備蓄米の随意契約の第2弾に中小小売業者は6万トン、米穀店は2万トンの枠を設け、30日に受け付けを始める。

1業者あたり1000トンを上限とし、複数業者の共同購入も認める。

2021年産米で5キログラム1800円ほどの店頭価格を見込む。

29日に開いた業者向けのオンライン説明会に1020社が参加。

対象は、コメの年間取扱量が1000トン以上1万トン未満の中小小売りと、精米できる米穀店。

1回の最低引渡量は原則10トンか12トンとなる。売り渡し価格は第1弾の21年産米と同じ60キロあたり税抜き1万80円に設定した。

平日の午前10時から午後5時にメールで受け付ける。先着順で時間外の申し込みは翌営業日の午前10時として扱う。25年産が出回る前の8月までに消費者に販売することを条件とする。予定量に達した場合は追加放出も検討する。（5/29日本経済新聞）

随意契約による備蓄米の放出計画	
売り渡し価格（玄米60キロ）	1万700円（税抜き、前回比47%安く）
売り渡し量	22年産20万トン 21年産10万トン
売り渡し対象	年間1万トン以上扱う大手小売業者
買い戻し条件	なし
輸送	小売業者が指定する場所まで国が輸送
目標	6月上旬にも5キロ2000円（税込み2160円）で店頭に



旬の味「佐賀の新玉ねぎ20kg」
今年も販売いたしますので
ご利用ください。

令和7年産稲作情報

注文締切日 6月25日

千葉県

〔生育概況〕 気象状況は、4月の第1半旬は気温が平年より低く、第2半旬以降は高く推移。第5半旬以降は、気温は平年並み、日照時間は全体的にやや少ない。4月20日頃に植えた水稻の生育は、草丈が並～やや長く、茎数は並～少なくなっています。一方、5月植えは草丈がやや長く、茎数が多い傾向です。

品種別の生育状況（5月20日現在）

植付時期	葉令の進み	草丈	茎数
ふさおとめ 4月20日	並	やや長	少
ふさがね 4月20日	並	やや長	やや少
コシヒカリ 4月20日	並	並	並
5月1日	やや早	やや長	多
粒すけ 4月20日	やや早	並	やや少

※平年比は過去10か年（2015～2024年）の平均値との比較。